

戦国末期の福島城代

本庄繁長の生涯

本庄繁長公没400年祭 堀田 実行委員会事務局長

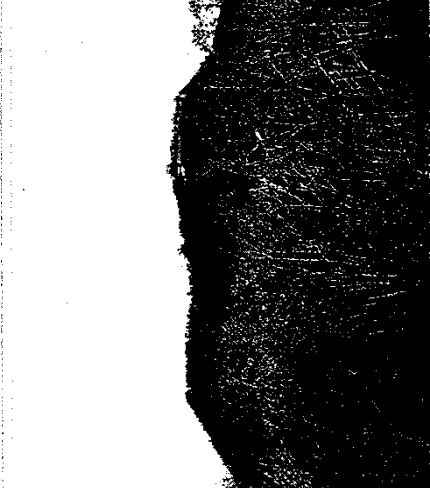
福島市市場町の長養寺に、戦国時代末期に活躍した福島城代本庄繁長の墓がある。繁長は八十回にも及ぶ戦いに一度も敗れたことがないと言われ、七十五歳で静かに天命を全うしている。今でも熱狂的なファンが多い武将だ。今年は没四百年にあたる。波乱に満ちた生涯、魅力ある人物像を紹介する。



本庄氏の祖先は、桓武平氏・鳥山氏の流れをくむ秩父氏で、鎌倉幕府から越後の北部(現新潟県村上市)の荘園「小泉荘」の地頭に任命され入部し、本庄氏を名乗った。繁長はその生涯17年(一五三九)年11から波

乱に満ちている。父房長は弟の小川長資(ながすけ)の謀反が原因で病没し、千代猪丸(繁長の幼名)は近傍の須賀城に追いやられ、本庄城(村上市)を占拠した長資の専横に苦しめられ続けた。それから十三年後、菩提寺である耕養寺(福島市長養寺の創建寺)での父の十三回忌の法要の席で、長資を切腹に追い込み父の仇を討ち、元服して名を繁長と改めた。この時を待ち望んでいた旧臣は繁長に忠誠を誓ったという。

繁長は十五歳で九歳年上の長尾輝虎(のちの上杉謙信)に拜謁し、その後から、景勝に従って川中島・関原、小田原、越中に



本庄繁長が籠城し、上杉輝虎(のちの謙信)と戦った本庄城(村上市)跡。新潟県村上市

不敗の武将 波乱の生涯 亨 (文・図解)

ほつた・とおる 昭和33年新潟県村上市生まれ。信州大理工学部卒。建設コンサルタンツ会社勤務。

眠戦している。激戦で知られる第四次川中島の戦いでは、繁長らは信玄の長男武田義信軍に大打撃を与え手柄をあげた。繁長は二十九歳の時、上杉輝虎(のちの謙信)に対して乱を起している。その理由は、武功への評価が低いこと、本庄家のプライド、武田信玄との呼応であった。本庄城での戦いは二年近くにも及び、後半には輝虎が一萬の軍勢で包囲したが、戦上手の繁長はがりう戦などで対抗し落城しなかった伊達氏(米沢)、菅名氏(会津)が調停し、輝虎は繁長の長男(七歳)を人質にとり、繁長を許した。三千人もの犠牲者を出した戦いであったが、輝虎が許したのは武

功派としての繁長を越後北部の重要な人物と考えたためと言われている。

出羽の国では領有権を争って政情不安が続いていた。そこで武藤氏(現鶴岡)は越後の上杉景勝(謙信の後継者)の力を求めた。天正一六(一五八八)年、次男を武藤家の養子に出していた繁長(五十歳)は、景勝の命を受け武藤家のため侵攻を開始した。その際、伊達政系にも出兵を頼み、山形城からの援軍を阻止した。そして、巧みな働き出し作戦により大浦城(現鶴岡市)を落城させた。本庄軍は、近くの十五里原で最上軍と対峙した。

本庄軍は一隊を敵正面に据え、本隊は夜陰に紛れて千安川を渡渉し敵の背後に回り、夜明けを待って両隊が突撃した。最上軍は必死に防戦したが、敵将東禅寺筑前守など多くの武将が討死し、敗走した。このあと山形城から最上義光が駆け付けたが、挽回は不可能だったという。

繁長はその後、活躍の舞台を福島に移していく。

(校正・松山勝彦本庄繁長公没四百年祭実行委員会委員・前村上市郷土資料館長)

